

今年度もあっという間に1年が過ぎようとしています。2月5日に「まんまん堂」と「カフェあん」で働く仲間が揃い会議を行いました。1年を振り返り、それぞれが仕事をして勉強したこと・困っていることなど話し合いました。

「現在のチームがやりやすい。」「ミルクがいろいろないか、お客さんのことを覚えていける。」「以前に比べたら声が出るようになってきた。」「言われてするのでなく、自分で考えて動けるようになってきた。」「紅茶を入れる練習をしています。」「という意見が出されました。1年かけて、ゆっくりですがお客さんに飲み物を出せるようになったという仲間もいます。」

お仕事がんばってます カフェスタッフ編



もちろん接客が苦手な人、この場でも声を出すことも出来ない人もいます。どうしたらそんな人も一緒に頑張れるかな?と聞く一生懸命考えてくれます。その後「〇〇さんも、お願いしたら水を出してくれようになった。」「と話してくれました。一人ひとりの障害も違うし、スピードが違うのが当たり前であり、その上で一緒に「勉強していこう。」「話し合いました。」

仲間にとっての一番は何といってもお客さんとのふれあいです。お客さんから「頑張っているなあ」とほめられるのが大好きです。あとはカフェの職員に一つひとつ仕事を教わることも自信につながります。自分自身や他の人の成長が実感できる場所がカフェとなっています。今年度初めてカフェの接客に挑戦した一君「カフェやってよかった!!」と発言してくれました。これからもガンバレ!!



この3月で退職されることになった職員からメッセージを紹介いたします。新天地でのご活躍をお祈りしております。

93年、みっちゃんのハーモニカで迎えていただきました。あれから四半世紀、たくさんの仲間のみなさまとの出会い、そしてお別れもありました。心に寄り添う日々の実践、集団のなかで働き長い年月のなかで言葉が増え、出来る事が増えてくる、それゆえのトラブルも着実な発達を目的に喜びを共にしてきました。みんなの願いを実現させるため、無認可から法人化にむけたマラソンスピーチ、きょうさんの署名を軸に社会への働きかけ、未曾有の阪神淡路大震災、東日本大震災、現地入りするなかで見えてきた支援のあり方。仲間のみなさんにとって暮らしやすい社会は、まだまだ課題は山積みですが、今後は可能な範囲で多方面にわたって支援に関わっていければと思っております。たくさんの方を教えていただいたみなさん、感謝でいっぱいです。これからもよろしく願います。

宮本 正一



在職中には大変お世話になりました。作業所でお仕事をするきっかけにもなったグループホームやワークハウス、すてっぷ糸屋などでは様々な経験や思い出を作ることができました。本日まで無事に勤めることができたのも皆さまのお力添えがあったおかげです。

池口 直人

この度、自己都合により退職させていただくことになりました。短い期間でしたが、たくさんの方の気遣いや学びがあり、おかげさまでとても充実した時間を過ごすことができたと思っております。仲間のみなさんそれぞれに得意なこと、誇れること、また困難や苦しいことがあっても、職員として微力ながらも、一緒にみなさんの個性やその育ちに関わることができた時間は、自分の一生の宝です。

ワークを離れることにはなりますが、これから過して行く中でも、「これは仲間には難いだろうな。」「どうやったらみんなができるだろうか。」「と、障がいをもつ方もそうでない方も暮らしやすい世の中にするにはどうしていけばよいか、考えていきたいと思います。二年間、ありがとうございました。

竹島 龍史

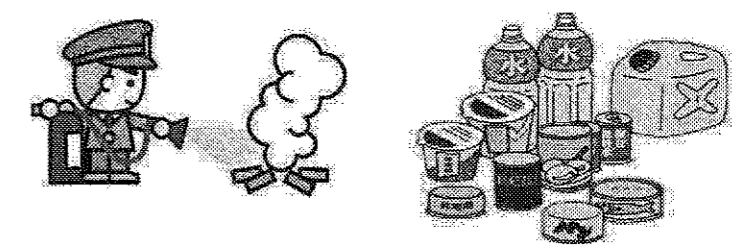
理事会からの報告

(理事会構成は、現在理事6名監事2名です。社会福祉法人京都ワークハウスは、就労継続支援B型事業所など6つの事業を行っています。)

- 12月24日 職員と理事者との懇談①
 - 1月23日 職員と理事者との懇談②
 - 1月30日 理事会開催 (役員報酬の改正・4月～12月の経営状況・特定処遇改善加算の実績・職員の人材育成について・作業所からの報告等)
 - 2月1日 世話人さんとの懇談を実施しました。
 - 2月15日 家族会と京都ワークハウスのこれからについて話し合いを行いました。
- 3月にも職員との懇談を予定しています。

来年度に向けて、また京都ワークハウスの今後に向けて幅広くみなさんと対話しながら事業展開を考えていきたいと思っています。3月にも理事会・評議委員会を予定しています。

避難訓練



～みんなで『自主訓練』しました～

毎年2月に実施している避難訓練は、新型コロナウイルスの感染拡大が危惧される最中、急きょ『自主訓練』となりました。「地震の後、火災発生」という設定での訓練です。「上京ワークハウス」「すてっぷ糸屋」「まんまん堂」「グループホームあつと」それぞれ『自主訓練』を工夫をこらしながら真剣に実施しました。グループホームあつとでは、地震時の身の安全の確保、火災時の通報、初期消火、誘導を3名の利用者、2人の世話人でしました。「緊急通報システムのやり方を冷静にできるか」「消火器の使い方が分からなかった」「非常ドアをうまく開けられるだろうか」振り返ると次々と声が出ました。訓練をして気づくこと、今後の防災対策や改善につなげていくことが大切とみんなで確認し合いました。